

セ ン サ ー

1983年 8月号 第11号

東京温度検出端工業会 会報

当工業会創立10周年を祝う

会 長 林 和 夫

(去る5月20日第10回総会に引続き、多数の来賓をお迎えし盛大な祝宴が催されました。その折の挨拶を骨子に、あらためて感想をつづって見ます。)

感 謝

当工業会は設立以来10年の歩みは無事終えることが出来ました。この間会員各位の御協力、役員を担当された皆様の御努力、特に事務局を御引受け頂いている西村工業さん、色々御世話下さるその社長、八木、武藤の皆様に対しては心からの御礼を申し上げます。

また、計量研究所、東京都立工業技術センター、賛助会員として一括加入している電気計測器工業会、温度計測用メーターのメーカー各位、等の御指導に対しても感謝を致します。

人類と熱とのかかわりあり

人間が熱を使いこなし快的な生活をするようになってからどの位の年数がたつのであろうか。

火を焚いて寒さをしのぐ、肉や魚に熱を加えて喰べる、発酵して酒を作る、陶器を作る、金属を熔かして武器や生活用品や仏像を作る。人間は火を作りこれを使いこなすことによって他の動物にくらべて確然と優位に立ったと言われています。

火を作れば当然その熱さ加減を知り、それを思う様にコントロールしたくなります。それを全く感に頼っていた時代から進歩して、次第に自動計測しオート・コントロールする様になったわけですが、戦後特にこの10年位の進歩は目覚ましいものがあります。メーターは質量ともに非常な伸展を見たが、センサーも種類、品質、量に亘り大幅な発展をとげました。今日ではバイメタル、サミスター、ブルドン管等を除いたいわゆる高品質のセンサーは、年間売上げ約200億円を超えるものと予想され、その中のかかなりの割合を当工業会のメンバーが製作販売しているものと思われま

当工業会の設立

思い返しますと丁度10年前の昭和48年、かねて抱いていた考えを、西村さん柴崎さんにおはかりし、更に今日中心会員となっておられる方々におはかりし当工業会の発足となったものであります。その動機となり目的となった要因は次の如きものであります。

- ① 今後温度センサーはその質、量ともに大きな伸展が予想される。しかも少量多品種でハンドメイド的性格の製品であるので、大手計器メーカーは次第に自社生産を止め、我々専門業者にこれをまかせる様になるものと予想される。その責任を果すためには、技術向上、製造設備の強化、人材の確保等を必要とし、いたづらな価格競争をしているときではなく、同業者の集りが要望される様になってきました。
- ② 一社では出来にくいことでも同業団体としてやれば出来る問題が色々考えられます。技術の勉強会、関連のある工業会やメーターメーカーの動向を知る、見学、官公庁との接触、その他の情報の収集等のことであります。

約20社で任意団体としてささやかにスタートしましたが、その後は順調な歩みを続けることが出来ました。事業としては

- A) 技術講習会
- B) 関連事項についての講演会
- C) 東京都立工業技術センターとの合同研究会
- D) 見学会
- E) 懇親会
- F) 機関誌「センサー」の発行

等が行われました。中でも同業の人々が知りあい、仲間意識を持つ様になった意義は大きいと思います。社長はじめ幹部が知りあうと同時に、第一戦の若い人々がこの会の事業を通して親しくなり「先日はどうも」とと言える様になったプラスは小さくありません。

今後の展望

上記の事業を継続して堅実な発展をはかると同時に

- ① 温度センサーの規格化を促進し、その審議課程で当会が強力に発言出来る様力をつける。
- ② 温度関連計器の展示会に、センサーメーカーとしての共同展示コーナーを設ける。

等の実現を期したいものです。

なお、関西の有力メーカーもお話をされて、同じ趣旨の会を設立され、東西協力して我国の同業界の発展のために尽力出来ることを願っていることを附記致します。

創立10周年記念祝賀会報告

事 務 局

当工業会は昭和48年6月に創立総会を開いて設立して以来、今年で丁度10年になりました。10年一昔、一つの区切りとして、日頃お世話になっている方々をお招きして10周年記念の祝賀会をやるという事が2月の理事会できまり早速実行委員会を設けて準備に入りました。開催日時は5月20日(金)定時総会終了後午後5時から総会と同じ霞ヶ関東海倶楽部に於て行う事とし、関係官庁、関連団体の代表、主な計器メーカーの代表、それに技術講習会等の講師として日頃お世話になっている方々及び新聞雑誌関係の代表者に御招待状をお送りするとし、又、会員も工業会担当者の他に各社の社長にも御出席下さるようお願いいたしました。

当日の様子は出席された方々は御承知の通り来賓20名会員36名の出席で大へんな盛会となりました。まづ最初に林会長が挨拶に立たれ、会の生い立ちや事業の様態等をお話された後、温度検出端の生産と開発は我々工業会員の責務である旨を強調されました。続いて司会者が御出席の来賓を御紹介したあと、次の方々から祝辞をいただきました。まづ主務官庁である通商産業省機械情報産業局計量課技官、鬼東忠人様。次に共同研究会、技術講習会等でお世話になっている東京都立工業技術センター計測制御部長、高橋一男様。又、当会が賛助会員として指導や情報をいただいているいわば親団体の日本電気計測器工業会専務理事、中川隆様。最後に計測器メーカーを代表して横河北辰電機(株)副社長、清水正博様から夫々お祝いの言葉と今後当会に対する協力を表明されました。そのあと当工業会創立者の一人で前会長の柴崎昌雄様の音頭により乾盃を行い祝宴に入りました。祝宴は和気あいあいのうちに来賓を中心に歓談がつづき、時のたつのを忘れる一ときとなりました。やがて東京科学機器協会副理事長、入江照四様の音頭により、当工業会の発展を祈念して威勢よく三本じめの中締めとなり、最後に西村副会長がお礼の言葉をのべて午後7時前に閉会となりました。

その後日刊工業新聞が当工業会の標準化、標準価格設定事業をとり上げて記事にし、各方面から事務局に問い合わせが来ております。又、通産省計量課の計量関係団体として直接指導をうけることになりその手続きをすすめております。

なお、当日出席の来賓は下記の方々であります。

(敬称略、順不同)

通商産業省計量課技官、鬼東忠人。東京都立工業技術センター計測制御部長、高橋一男。同主任研究員、尾見和人。同主任研究員、河村昭利。工業技術院計量研究所研究企画官、服部晋。日本電気計測器工業会専務理事、中川隆。東京科学機器協会副理事長、入江照四。横河北辰電機(株)副社長、清水正博。山武ハネウエル(株)常務取締役、茂木和男。(株)千野製作所社長、木村治剛。大昌電機(株)相談役、柴崎昌雄。東京工業大学教授、栗野満。(株)岡崎製作所常務取締役、佐藤祐典。デグサジャパン(株)金属事業部、川口耕作。横河北辰電機(株)システム事業部、小川実吉。(株)千野製作所技術部長、佐藤和男。古河特殊金属工業(株)技術部長、河野充。雑誌「計装」工業技術社社長代理、稲橋一彦。日本工業新聞社社長、正木毅。日刊工業新聞社論説委員、吉田幸生。

以 上

会員紹介

日本サーモウェル株式会社

本社 東京都新宿区矢来町123

TEL 03-268-1501 (代)

志木工場 埼玉県朝霞市溝沼280

TEL 0489-61-4702

資本金 3000万円

同社は東京の真中にあたる新宿の地下鉄東西線“神楽坂駅”近くにあり、都心とは云え周辺は閑静な住宅地でもある。比較的近くには早稲田大学、或いは靖国神社、北の丸公園などが点在している。

同社は昭和34年10月に豊島区東池袋2丁目に於て、工業計器検出端の製造販売を目的として創立されました。

昭和39年4月には大倉商事(株)を総代理店として全国的に販売を開始され、又、昭和41年には助川電気工業(株)とシース熱電対及びシース測温抵抗体に関し、技術及び業務提携をされ、現在に至っております。

この間、昭和45年から同51年にかけて、UOP、シェル、エッソ、カルテックス、フルワーインターナショナルの各社のベンダー指定ともなっており、順調な路線を歩んでおられます。

現在、工業計器検出端の他に、計測管理及び熱管理諸機器、諸装置の製造販売もされており、例えば、バイメタル温度計をはじめとする各種温度計、濁度計、色度計などがあります。主要取引先としては、石油精製、石油化学関連及びエンジニアリング会社、プラント各メーカー、電力・ガス関連会社などで、海外の同関連会社にも多数輸出されております。同社の永年に亘るウェル製造技術と、製造ノウハウを基に、国内外を問わず広く産業界に御貢献される様願っております。

理事会

2月4日定例

- ◎業態調査アンケート報告
- ◎技術講演会、講師東京工業大学宗宮教授に依頼
- ◎定時総会及び創立10周年記念行事について

4月10日定例

- ◎第10回定時総会提出議案審議
- ◎創立10周年記念祝賀会につき、実行委員会案審議

6月9日定例

- ◎創立10周年記念祝賀会来賓に対する御礼状と当日スナップ写真送付について
- ◎昭和58年度事業について月別に検討

会の動き

- 2月4日 新春懇親会、椿山荘木春堂にて、22社32名出席
会報「センサー」10号発行
- 2月22日 技術講演会、「最近のエンジニアリング・セラミックス」について、
講師東京工業大学教授、宗宮重行先生。24名出席
- 5月11日 業態調査アンケート結果報告
- 5月20日 第10回定時総会、霞ヶ関東海倶楽部にて、出席19社27名
役員改選結果
会長 林電工(株)。副会長 西村工業(株)。
理事 石福金属興業(株)。理事 助川電気工業(株)。理事 大昌電機(株)。理事 田中貴金属
工業(株)。理事 (株)徳力本店。理事 古河特殊金属工業(株)。監事 相互電機(株)。監事 二
宮電線工業(株)。
- 創立10周年記念祝賀会 同所にて 来賓20名 会員36名出席
標準価格表発行

以上

第8回ゴルフ会報告

7月12日、平塚富士見カントリークラブで行いました。梅雨の最中であり、また前日まで雨続きだったことから雨に降られることも覚悟のコンペだったのですが、全く運が良く雨も降らず、暑くもない絶効のゴルフ日和となりました。コースの状態も良く、スコアも良かったと、といたいところなのですが、普段の成績に比べて皆さんの成績はいかがだったのでしょうか。

このなかで、さすがというべきか地元の利というべきか古河特殊金属工業(株)の佐藤さんが唯一人の80台のスコアをマークして優勝されました。2位は日本特殊陶業(株)の浅野さん、3位は林会長でした。次回は10月～11月頃を予定しておりますので一人でも多くの参加を期待しております。

工業計器生産実績(通省産業省機械統計月報による。)

(%は金額の対前年同月(期)比)

(通産省生産動態統計(機械統計)による。)

品 目 名			58年 2 月			58年1月～2月		
			数量(台)	金額(百万円)	(%)	数量(台)	金額(百万円)	(%)
工 業 計 器	プロセス用 発信器	温度計	16,977	491	—	30,584	906	—
		流量計	6,038	1,672	—	13,023	3,216	—
		その他	7,913	1,225	—	15,600	2,345	—
		(小計)	30,923	3,388	—	(59,207)	(6,467)	—
	※ 受信計	指示・記録計	16,006	1,912	—	31,047	3,692	—
		調節計	14,690	1,259	—	27,727	2,404	—
		補助機器	12,763	1,082	—	24,894	2,031	—
		(小計)	43,459	4,253	—	(83,668)	(8,127)	—
		操 作 器	1,909	319	121.3	3,684	616	124.9
		プロセス用分析計	1,351	788	—	2,808	1,155	—
		プロセス監視制御システム	44,618	3,678	115.4	9,766	7,531	121.3
		その他の工業計器		5,044	69.8		9,218	69.4
		(合計)	82,260	17,470	96.8	(159,133)	(33,114)	95.7

(注) a. 電気計器、電気測定器、工業計器の生産実績は、機械統計調査票番号39「電気計測器」より

※印の分類品目は、工業会統計の対応のため事務局で記入した。

昭和58年8月発行 No.11

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電話 494-0671